

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 11
2021・8・31

1 ドイツ連邦政府の9省大臣が社会変革のための共同構想を提案

—キーワードは多様性、革新の可能性、持続性— (2021・8・20)

社会の変化するニーズに対する回答を中心に据える。各大臣のそれぞれの構想には、独自の重点を設定している。基本は多様性、参画、革新の可能性そして持続性である。我々は将来どのように生きるのか？ 我々は共に生きることを、より良く組立てれるのか？ 我々は社会的に大きな挑戦を、どう克服するのか？これらの問題に回答するために、9人の連邦大臣が連携している。これを連邦教育・研究省大臣が調整した。社会変革のために、各専門分野の構想を策定した。

この構想策定に参画したのは、連邦内務・建設・国土省 (BMI)、連邦経済・エネルギー省 (BMWFi)、連邦労働・社会省 (BMAS)、連邦食料・農業省 (BMEL)、連邦家族・高齢者・女性・青少年省 (BMFSFJ)、連邦保健省 (BMG)、連邦交通・デジタルインフラストラクチャー省 (BMVI)、連邦環境・自然保護・原子炉安全省 (BMU)、連邦教育・研究省 (BMBF) である。

各専門分野の構想について、社会的な革新を自らの専門分野で将来的にどのような関連、どのような目的と手段によって、将来的に奨励したいのかを、9大臣が共同で説明した。その際、共通の概念は「社会革新」の非常に幅広い理解に、基礎をおいている。それぞれの大臣は社会革新奨励に際して、各専門分野の重点を設定している。勿論、共同の基本方針も有効である。

例えば、社会的な必要性並びに多様性、社会参加そして持続性の配慮に対する方針など。人々は社会革新のもとで、多くの分野において人間の相互協力の改革を理解している。人々の働き方、余暇の過ごし方、モノの購入や住み方、旅行など多くの改革が考えられる。

同時に社会的な革新は、社会の変化する要求を配慮する。そのような革新について、これまで例えば多世代ハウス（訳注・高齢者と子供・青少年が一緒に交流したり楽しむことができる施設）、小規模経営者のためのマイクロクレジット（訳注・無担保で小額の融資を行う金融サービス）、テレケア（訳注・遠隔医療）、カーシェアリング、農村における多機能ハウス（訳注・村の店や理髪店、カフェ、郵便局など村住民の日常生活に必要な機能が付与されている建物）または衣服交換所が設置されている。

またそのような変革は、人々に対して閉じられた分野（例えばデジタル化）へのアクセスを可能にする。アクセスを開き、目的とする社会参加によって、社会的な壁に対抗することができる。そのため、公的な奨励と社会革新の可能性は、社会的バランス（補償）と能力開発の表現である。

背 景：

連邦政府は各専門分野の構想でもって、社会変革を取り上げている。つまり、専門分野を越えた包括的な調整に向けたハイテクフォーラム並びに専門家委員会の推奨で、研究と革新が社会的革新をより強く推進する。ドイツ連邦議会の決議もまた、2020年5月26日からの連立政権の提案に基づき、この構想を促進している。連邦政府は、専門分野を越えたこの構想でもって、社会革新を奨励する。このテーマに関する詳しい情報は、これに参画している各省のホームページで入手できる。

2 クレックナー大臣：2021年度農作物の収穫報告：異常気象が大きな影響を 一農業戦略でもって気象変動への的確な対応が必要一（2021・8・25）

クレックナー大臣が、2021年の農作物収穫報告書を提出した。気象適応は緊急に必要である。農業戦略のツールボックス（道具箱）で支援すべきである。

2018年の早魃年、2019年と2020年も少ない降水量、同年の雹、強い雨そして洪水一各経済部門は農業と同じく極端な天候の影響に晒されている。気象変動は、大きな挑戦の分野である。これはクレックナー大臣が今日（8月25日）、紹介したことが収穫報告書に記載されている。同じく大臣は、気象変動に対する農業分野の適応戦略として、「農業戦略」の骨子を紹介した。

クレクナー大臣：” 農作物の収穫への期待は、これまで長い間楽観的であった。多くの地域で収穫作業は雨と雷によって遅れており、その中で収穫量と品質の低下に苦しんでいる。これは収穫結果にも反映し、そして確実な収穫量が自明で無いことを、明確に示している。私は農業において気象適応の必要性を確信している。その際、連邦省の農業戦略はさらに重要な礎石となる。農業戦略は、農業における気象適応のための、我々のツールボックスである。

我々は同時に、土と畑においてより多くの気象保護をもたらす。我々はドイツにおける農業を、持続的にそして資源を節約することとする。同時に農業者の収穫と収入を安定させる。この農業戦略でもって決定的な礎石を築き、将来においても広範囲に地域的な食料を栽培できる” と、クレクナーは述べた。

2021年農作物収穫報告の要点：

穀物

春と初夏からの楽観的な期待は満たされない。収穫作業は平均年と比較して、遥かに遅れている。なぜならば、7月8月は乾燥し収穫に適した天候の時期が、殆ど無かったからである。これは収量と品質を圧迫した。穀物の収穫は、今年平均以下の結果となった。

- 一 今ある収穫確定に基づくと、4 210 万 t の収穫量が見込まれる。
- 一 これは前年よりも 2.7%少なく、そして 2015 年から 2020 年までの平均よりも 4.8%少ない。

秋まき小麦

- 一 秋まき小麦の収穫量（最も重要な穀物種）は、前年結果よりも 3.5%下回った。これは栽培面積が前年よりも、4.4%増加したのにも拘わらず。
- 一 他の全ての穀物種の栽培について、ha あたりの収量がここ数年間の平均水準を下回っている。

燕 麦

- 一 2021 年収穫報告において、食料の傾向もまた反映している。
- 一 燕麦の栽培面積は前年に比較して約 12.5%増加している。
この面積増加は、燕麦産物に対する需要増大が理由である。
- 一 さらに多くの農業者が様々な作物を、輪作に導入している。

ナタネ

- 一 ナタネの総収穫量は、約 350 万 t と前年水準にあり、栽培面積は前年よりも約 5%増加した。

- ー だがしかし、ha 当たりの収量は 3.5t で前年よりも約 4.5%低下した。
- ー 2015 年から 2020 年までの平均収量との比較で、11.3%減少している。

果実と野菜

- ー 果実と野菜について、平均以下の結果が浮かび上がっている。
- ー 果実についてその理由は、長期間の低温でもって少ない太陽光と、さらに多すぎる降水量である。
- ー 野菜について低温のために成長の遅延があったこと、そして湿ったまたは浸水土壤のために、野菜が期限内に収穫できない問題があった。

飼料作物の栽培/家畜飼育

- ー 基本的な飼料の供給（クローバー、クローバと他の牧草との混合、サイレージのような畑地栽培飼料）は、今年については乾燥した年との比較で増加している。降雨量によって明らかに改善された。
- ー 川の氾濫に遭遇した地域では、違った状況になっている。この地域は部分的に飼料の蓄えが壊滅し、さらに利用している飼料畑が使用不可となった。
- ー このような経営を支援するために、クレックナー大臣はいわゆる有機優先の農地から、飼料目的に変更を認めている。

農業戦略：

この戦略の目的は、農業における生産性をさらに確保し、そして同時に土壌と併せて気象を保護する。なぜならば、土壌は我々の食料の基礎であるから。

このため、連邦農業省は科学部門との行動分野を確認している。各々の行動分野のために、農業者とも議論して実践のための政策を策定している— 1000 人の実践者が関与している。全体で収穫—収入確保と、資源—気象保護を組立てた 600 以上の個別政策を示している。

12の行動分野：

- 1 土壌保護と土壌肥沃性の強化、例えば腐植促進の奨励によって。
- 2 栽培作物の多様性の向上。輪作によってこれを拡大する。小麦、トウモロコシ、大麦だけでなく、スペルト小麦（訳注・紀元前 9000 年から栽培されている古代麦。グルテン含量が少なく、アレルギー反応の無い健康な麦として人気があり、現在ドイツや中央ヨーロッパで栽培されている。）、大豆その他の豆類などの栽培を促進する。
- 3 肥料効果の向上。農業者の必要量に応じた施肥量、適量を施肥することによって。

- 4 より強化された統合作物保護。例えば、特別な輪作体系を通じて。
- 5 気象に適応した、そして抵抗性のある作物の品種育成の強化。
- 6 農業におけるデジタル化の促進
- 7 生物多様性の強化。例えば、畑地での広範な輪作、より多くの樹木、生垣そして花の畝畑
- 8 気象に適応した栽培体系の発展
- 9 気象保護の強化。気象変動への適応は、特に適する種と品種を通じて行う。そして栽培システムが変化する。土壌耕起の最適化もまた、これに含まれる。例えば、作物またはマルチによって年中土を覆うことによって。
- 10 教育と普及指導の強化
- 11 農業者の評価向上
- 12 農業戦略の政策的、財政的な支援

3 ドイツとオーストリア：EU一森林戦略に関する共同声明に署名

— EU 委員会の提案は加盟国の主権を拘束すべきでない— (2021・8・26)

ドイツ連邦食料・農業大臣クレックナーとオーストリアの同僚大臣が、EU一森林戦略に関する共同宣言に署名した。地域の森林専門知識強化のために連携する。オーバーハウゼン（ラインラントプファルツ州）における共同会議に際して、クレックナー大臣とオーストリアの同僚大臣エリザベート ケステインガーが、EUの新しい森林戦略の方向性に関する共同宣言に署名した。

連邦大臣クレックナーは、EU一森林戦略を加盟国の森林政策を支援し、補完するものであり、差し替えるものでないとしている。しかし、加盟国に拘束力のある基準を計画している EU一委員会の現在の提案が、森林管理の立案に主権を担うことは、決定的に認められない。ドイツとオーストリアは、ヨーロッパ域内で豊かな森林の国に属している。ドイツは全国土面積の 1/3 強が森林で覆われている。オーストリアは半分である。

クレックナー大臣：“我々は、ドイツの歴史上最大の森林支援プログラムをもって、持続的な林業を現地で奨励している。我々は、その額 15 億ユーロ（約 1950 億円）を手にしている。なぜならば、気象に適応した森林への改造と、生物多様性、気象保護、経済性との間の適切なバランスを重要視しており、それに対応した予算である。

この戦略でもって、ヨーロッパレベルでもまた、この関心事を支援することの意義は大きい。しかし、このため我々はブリュッセル（EU 本部）から、より多くの官僚主義的な「書類の山」は必要としない。EU 一委員会が地域の専門家の頭越しに決定するならば、これの受入れは我々の森林を害することとなる。そのため、我々はこの領域における EU の権限配分の原則と、加盟国の権限弱体化に対して、明確に反対する。

オーストリア大臣エリザベート ケステインガー：“ヨーロッパレベルで森林は、常により多くの環境と気象政策のポーン（チェスの駒）になっている。これを我々オーストリアでは、受入れしない。我々の森林は、生活一保養空間だけでなく、経済一労働空間でもある。森は気象保護のための基本的な貢献を、果たしている。森は課題解決の一部であり、問題それ自体ではない。”

我々は木材でもって CO₂を、長期的に蓄積することができる。木材の利用によって CO₂が、木材製品に長期的に蓄積される。そして化石原料に代替できる。鍵は常に持続的な森林管理である。より強く将来に指向した EU 一森林政策は、持続的な森林管理に常に焦点をあてねばならない。森林は自然空間としてだけでなく、それ以上である。我々は、このことを 11 の加盟国と共同で強く求め、そして農業理事会でイニシアチブをスタートさせる。”

EU－森林戦略2030の共同宣言－重要なポイント

- 一 EU 加盟国において高いレベルでの専門家の鑑定、広範囲なそして地域的に細分化した体験をもとに、森林管理上の広範な科学的再評価を確立すること。EU 一委員会の森林政策の集中化を正当化しない。
- 一 EU 一加盟国は、適切かつ自然により近い多くの森林構想を生かしている。森林の生物多様性と同時に経済的にかつ生態系上も、そして社会的機能も目的として奨励し、森を保持していることの配慮。
- 一 現在の EU 一委員会の提案は、森林の計画主権を引き継いでおり、そして法的に EU 一加盟国に対して法的に拘束力のある要件を計画している。しかし、我々はこれについて拒否する。このことは、信頼できなく、そして EU 一条約に規定された権限の順位、または権限配分に調和していない。

一 EU 一森林戦略 2030 は、全体的な熟考方法の分野で加盟国の国内森林政策に、焦点をあてるべきである。これは特に気象変動に対する森林の抵抗能力強化のための、共通した取組みが含まれる。そしてさらにバイオ経済とともに、独自の持続的な管理の森林から、我々が最も重視する再生可能な原料材料でもっての木材建築が奨励される。EU 一域内での林業の奨励は、目的に合わせて実施されるべきであり、EU の領域における森林所有者の環境貢献に、適切に報いるべきである。

一 EU 一農業理事会のドイツ議長職のもとで、2020 年 11 月 10 日の理事会最終結論に配慮し、その中で要請されている EU 一レベルでの委員会と加盟国のより強い共同行動を投入すべきである。

4 クレックナー大臣：高齢者のためのネットワークセンターを設立

一高齢者の健全な栄養とより多くの運動、そして社会参加をー(2021・8・10)

連邦高齢者団体協会（BAGSO）の専門会議は、地方自治体のマルチプレイヤー（他者に知識など情報を伝え、その普及に貢献する人または機関、メディアなど）を招集した。連邦大臣クレックナーは、彼女が開始した高齢者のための栄養イニシアチブ（先頭に立って全体の動きをリードする人）を集め、さらなる礎石を紹介した。なお、知識を伝達しそしてアドバイスを提供するために、最初のネットワークセンターを設立した。

健全な栄養、より多くの運動、社会的な参加

連邦食料・農業省は、高齢者のために健全な栄養、より多くの運動と社会的な参加を奨励している。2019 年 2 月 26 日にボンにおける高齢者組織である連邦高齢者協会（BAGSO）のシンポジウムの際に、クレックナーが予告していた。これは高齢者施設における食事の質的向上と”車輪の上の食事”（訳注・車などで高齢者や病人に届けられる無料の食事）を、より強く中心に据えることである。

高齢者施設と車輪の上の食事に関して、ドイツ栄養協会から公開されている品質基準の適用が有効である。クレックナーが述べた。「この野心的な目的を達成するために、我々は高齢者の栄養に関する共同でかつ広範なネットワークセンター設立のために、各州と協議している。最初のネットワークセンターは、2019 年に活動を開始し、バランスのとれた栄養に関する情報を人々に提供している。さらにネットワークセンターは、高齢者の社会参加奨励のためにも貢献している。

認知症と糖尿病：研究に焦点を

クレックナー大臣はさらに予告した。” 認知症並びに糖尿病と栄養との間の考えられる関係について議論するために、2019年に2つの円卓会議を招集した。

特に円卓会議の目的は、ドイツにおけるこれまでの研究の現状である。更に重要なことは、連邦食料・農業省に関して、今後の研究需要を確定することである”、と連邦大臣が述べた。

ボンにおける専門会議

連邦高齢者協会一専門会議に際して、「地方自治体における高齢者の健康を、創意的に形成する一楽しみながら学び、身体と心を動かす」をスローガンに、ボンで開催された。100人以上の専門家と関係者の前でクレックナーは述べた。

” 私は高齢者の栄養知識の改善も、そして適切なマルチプレイヤーを、集中的に視野にいれる。国民のさらに上昇する平均年齢でもって、特別な栄養知識と特別な必要性を配慮して、改善することが常に重要である。

10年以上前から連邦食料・農業省は、連邦高齢者協会とともに、このことを強化してきた。連邦省は、既に2018年から約200万ユーロ（約2億6000万円）でもって、IN FORM 高齢者一プロジェクト一健全な栄養とより多くの運動、そして社会への積極的な参加を支援している。

これは3年間のプロジェクトで、地方自治体レベルで実行されている。これは良く研修を受けたマルチプレイヤーによって、高齢者がバランスのある栄養をとり、十分に運動することを、提供する。さらに地方自治体における高齢者の社会参加を強化する。”

高齢者センターの訪問

クレックナー大臣は、連邦高齢者協会会長フランツ ミュンテ フェーリングとともに、ボンにある高齢者施設「ローゼンタールの家」を訪問した。

連邦大臣は、長年のそして信頼における共同活動を讃えた。” 連邦食料・農業省は、高齢者の栄養、運動と社会参加の分野において、ドイツで高齢世代の関心事の代表者として、連邦高齢者協会の参画した活動を評価した。フランツ会長は述べた：” 地方自治体において高齢者の仕事に責任を持つ人は、高齢者の居住地周辺において、サービス提供の際に特別な責任を負っている。高齢者におけるIN FORMの連邦高齢者協会一プロジェクトは、さらに連邦機関の専門的な支援を得ている。”

フランス会長の結論：”この仕事は成功し、そして我々は喜んでこれを継続する。”連邦高齢者協会はボンに本拠をおく団体であり、高齢者の仕事での100以上の加盟団体を有している。ワーキンググループは、高齢の人々の関心事を、国の政策、経済そして次の世代を視野に入れた社会を代表している。さらに可能な限り健康で、そして専門的な知識をもった高齢者のための出版と、イベントを提供している。

5 連邦栄養センター：学習キッチンにおける料理教材の普及を

—生徒たちに調理実習を通じて栄養教育を— (2021・8・18)

連邦食料・農業省は、IN FORM(訳注・ドイツの健全な栄養とより多くの運動に関するイニシアチブ)の領域において、シュム エキスパート(訳注・連邦栄養センターの栄養教育の教材)の発展と普及を奨励している。これは栄養—消費者教育に際して、5~6年次クラスないし6~8年次クラスの専門授業における教師を支援する。生徒は、自力で料理を簡単に準備し、そしてキッチンまたは教室で美味しい料理をつくる。生徒たちはこの授業を通じて、重要な技術とそして料理との付き合いにおいて知識を取得する。

シュム エキスパート (SchmExperten)

シュム エキスパートは、連邦栄養センター (BZfE) の教育コンセプト (構想) である。これは5~6年次クラスにおける栄養—消費者教育のための刺激を与える。これは教育において簡単な手掛かりとなる。目的は生徒たちに能力を付与する際に、鍵となる専門知識の伝達であり、そして行動における変化を、積極的に創り出すことである。連邦栄養センターは授業用教材について、教師の継続教育とオンラインセミナーを提供する。その際、参加者はこの教材でもっての授業において、基本的な知識を手にする。そして多様な方法を体験し、同僚教師との経験交流において、自らの授業における実践を準備する機会を得る。目的は、シュム エキスパートが、学校生活において広範にそして持続的に定着することである。

学校キッチンでのシュム エキスパート

連邦栄養センターの教材は、6~8年次クラスの専門授業の食料知識とキッチン技術を伝達する。生徒は健康を指向した料理を評価し、楽しみをもって調理し、そして味わって学ぶ。キッチンでつくる暖かい料理(熱を通した料理)は、食文化、食品への栄養表示そして食品購入のようなテーマと結びついている。

キッチンにおけるシュム エキスパートは、5~6年次クラスの同種の授業教材の教授法を取り上げている。

学習キッチンの拡大は、6~8年次クラスにおける専門授業の計画を適応させている。例えば、家政、消費者教育、ワーク（仕事）理論または社会制度など。授業教材「シム エキスパート」には、デジタルバージョンも含まれている。

6 クレックナー大臣：連邦施設の食堂で有機一食品の割合を20%まで向上
一食料の輸入は持続的管理と公正な輸入から (2021・8・25)

連邦食料・農業大臣クレックナーは、連邦政府のモデル伝達者機能を強調した。閣議は持続性プログラムを決定した。今週の閣議において、「持続性は行政活動の中で具体的に実践する」を、持続性政策プログラムにおいてさらに発展させる。このプログラムは、全ての連邦行政施設と庁舎建物が対象である。そして様々な分野において、より多くの持続性を実現するために、具体的な政策を決定した。連邦食料・農業省クレックナー大臣は、この際、食堂と共同食事提供の分野について改善を達成する。

- 一 2025年までに有機一食料の割合を20%まで高める。
- 一 コーヒー、お茶、カカオ製品とバナナは、遅くとも2025年末までに、専ら持続的栽培と公正な貿易からのみ購入する（コーヒーは連邦農業省の庁舎で既に100%公正な貿易からのみ調達している）。
- 一 肉は可能な限り家畜の保護に適合した家畜飼育から購入する。魚は持続的にそして現況を遵守する漁業、または持続的に管理する養殖漁業から調達する。
- 一 食堂に関しては、2022年末までに更に具体的な持続性要件を策定する。

クレックナー大臣：“我々は連邦政府としてより多くの有機、より多くの家畜の福祉そして公正な貿易に尽力している。我々は全経済のためのモデルでありたい。同時により多くの持続性と有機一食品のように、全てについて手ごろな価格で提供されることを示したい。”

2021・8・31 訳
青森中央学院大学
中川 一徹